



学ぶ 伸びる 育つ

中央っ子

やさしく
かしこく
たくましく

第14号
令和6年1月22日
中央小学校
文責 上原

寒さに負けず

一月もあつという間に、終盤にさしかかかってきました。季節は、冬まったただ中。一月二十日は、二十四節気の「大寒」と呼ばれ、一年の中で最も寒い時期と言われています。



特に、今週は寒さが厳しくなり、一日の予報最高気温が十度を下回る日もあるようです。子どもたちが登校する時間帯は、朝の冷え込みが厳しいですが、元気に登校している姿にエネルギーをもらっています。昼休みにも、運動場で遊ぶ姿が見られ、まさに「子どもは風の子」ですね。

規則正しい生活とバランスのとれた食事、睡眠、運動を心がけ、寒さにもウイルスにも負けず、元気に過ごして欲しいと思います。



給食週間

日本の学校給食の始まりは、明治二十二年に山形県の小学校で貧困児童を対象に昼食を無料で提供したものであると言われています。献立は、おにぎり、塩さけ、菜の漬物だったそうです。その後、各地に広がっていきましたが、戦争の影響などによって中断されました。



戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に、学校給食の再開を求める声が高まるようになり、給食用物資の寄贈を受けて、昭和二十二年から学校給食が再開されました。これを記念して、一月二十四日から一月三十日までの一週間を「学校給食週間」としました。

本校でも、給食週間を設定し、給食や食、食べ物について考える機会としています。

一月十九日（金）には、児童

集会で給食委員会の児童による発表がありました。給食ができるまでの工程や給食センターの方々を気をつけていること、給食に込められた思いなどについてしっかりと学ぶことができました。



また、感謝して食べることもや給食当番をするときには、気をつけること、食べるときのマナーなどについても考えました。

食育は、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置付けられています。

その中で、学校給食は、栄養バランスを考えた献立で、子ども達の健康や成長を支えるとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けたりを、地域の地場産物や食文化等を学んだりする大切な役割を果たしています。

ご家庭でも、お子さんと食料や料理をしながら、食の大切さについて話題にしてみてくださいか。

野球しゅっぜ!

アメリカメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が、全国の小学校にグローブをプレゼントするという話題は、ご存じのことでしょう。「いつ来るのだろう」と心待ちにしていた子どもも多かったと思います。

ついに中央小学校にも大谷選手からのグローブが「野球しゅっぜ」のメッセージとともに届きました。

一月十九日（金）の児童集会で、全校児童に紹介し、箱を開けると歓声とともに、子ども達の笑顔がはじけました。

代表して、六年生の児童に早速着けてもらうと、「やわらかくて使いやすいです。」と感想を言ってくれました。



みんなが見たり触ったりできるよ

う各教室を回しています。

新天地「ドジャース」での大谷選手の活躍を応援しながら、感謝の気持ちをもち、大切に使用したいと思います。